

東京都 zero3110 さん 女性
米子おばあちゃんへ

おばあちゃん家に行くとき必ずあった特別なものがありました。

高校時代、落ち込んでる私に『食べると元気になるよ！』と笑顔で差し出してくれた物・・・

それがナボナ！一瞬にして小さな頃を思い出して懐かしさと元気になり、ほっこりしました。

大人になってもあの時のこと忘れられません。私も家族に同じことをしています。

天国にいるおばあちゃんいつも優しく見守ってくれてありがとう！今では夫や息子、家族で元気が出るものと時にはみんなに買って来たよと・・・プレゼントしてくれる大切なもの。

いつか産まれる私の孫にも伝えていきたいもののひとつです。孫の純子より。

群馬県 みゅうみゅうさん 女性
祖母へ

私の実家の駅には昔から亀屋万年堂があります。

おばあちゃんと二世帯同居していた昔、お客さんが来たりちょっと豪華なおやつの日が決まってナボナを買ってもらい食べました。

当時の私はチーズやパインのナボナを食べる日が本当に楽しみで駅に向かうときにお店の前を通る度に次に食べられる日を心待ちにしていたのを思い出します。

今は結婚・出産をし、遠くで暮らしています。二十年以上経ち八十八歳を過ぎ遠出が出来なくなってしまった祖母ですが、里帰りすると大好物のナボナをお土産に持たせてくれます。

不思議と食べると昔と変わらない優しい味に癒され、幼い頃の思い出がよみがえります。

四人の息子達も大好きで、どの味を食べるかいつもじゃんけんをし…そんな姿をニコニコと

おばあちゃんは眺めて嬉しそうにしています。

孫の私をいつも気にかけてくれる大好きなおばあちゃん、時代は流れていきますがおばあちゃんとナボナは変わらず私にとって特別な存在です。

東京都 かめきちさん 女性
祖母へ

もう 40 年近く前になりますが、当時地方に住んでいた私たちのところに、しばしば東京から祖母が遊びに来てくれました。お土産はナボナ。祖母のお土産はいつも楽しみ。

身近に洋菓子店もなく、ナボナは珍しくてたまりませんでした。

ちなみに、幼子にはナボナの発音は難しく、大きくなるまでナボナと呼んでおりました。

おばあちゃん、ナボナありがとう、と。年子の弟と争って食べようとするものの、我が家のルールで、1 度に食べる量は 2 人で 1 個だけ。

今思えば単純に半分に切ればよいのでしょうけれど、カステラ部分を真ん中のクリームのところを外して 2 人で分けるのが我々姉弟流。分けた後は、クリームののったカステラをさらに 2 つに分けて元のようにサンド型に組み立てるのが当時の私流。

今でも、家族でナボナを食べるときには必ず話題になります。

いつまでも変わらない味とともに家族の楽しい思い出を提供してくれるナボナに、ありがとう。

